

# 令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 東紀州くろしお学園・本校 )

## 1 目指す姿

(1)目指す学校像		<p>児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出し 元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。 ※元気は、健康や体力を、笑顔は感性や情操を、光は個性や特性を意味する。</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紀南地域の関係機関・団体と協働し学習をすすめている。</li> <li>・紀南地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。</li> <li>・自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。</li> <li>・学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。</li> <li>・紀南地域等の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・紀南地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。</li> <li>・特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校等へ専門的なアドバイスを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。</li> <li>・教育環境をソフト、ハード面で整備し、児童・生徒が安全・安心して学校生活を送ることができるよう積極的に取り組んでいる。</li> <li>・ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。</li> </ul>

## 2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;児童・生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で笑顔で、安心して学べること</li> <li>・可能性を伸ばし、社会的に自立すること</li> </ul> <p>&lt;保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒が、健康で笑顔で、安全に学べること</li> <li>・児童・生徒の進路が保障されること</li> </ul> <p>&lt;紀南地区の障がい児を持つ保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設見学等の情報提供の機会があること</li> <li>・教育相談の機会があること</li> </ul> <p>&lt;紀南地区の教職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の研修が実施され、専門的知識が提供されること</li> <li>・特別支援教育に関する相談の機関であること</li> </ul>	
	(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>&lt;保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有意義な学校生活と進路保障</li> </ul> <p>&lt;福祉・医療機関&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携強化と情報共有</li> </ul> <p>&lt;地域の公立学校等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修と専門的知識の提供、教育相談</li> </ul> <p>&lt;紀南地区の企業等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労に向けた連携</li> </ul> <p>&lt;金山地区&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸行事等へ参加し、認知度を高める</li> </ul>

<p>(3)前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研鑽を深めるための授業見学や他の特別支援学校の見学・交流などが活発に行えるようになってほしい。</li> <li>・高等部の交流活動の取り組みは評価できる。今後は、熊野市が進めている「熊野アグリパーク（仮称）」が活用できるとよい。</li> <li>・コロナ禍で臨時休校になったとき、リモートの授業を行うことで学習の保障ができていたのはよい。</li> <li>・リモートの準備など職員の負担が増えているのではないかと思っただが、時間外労働などの負担はそれほど多くないので、職場環境の整備ができています。</li> </ul>
<p>(4)現状と課題</p>	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①交流学习の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校がある金山地区との交流を進めていく必要がある。学校関係者評価委員会には金山区長も参加しているので、地域の活動状況を把握し、どのような形で参加していくのかを検討する。</li> <li>・同じ地域で暮らす仲間として近隣の学校とは積極的に交流活動を続けていく必要がある。コロナ禍の状況でも継続していけるような取り組みを進める。</li> </ul> </li> <li>②ICT教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休校となっても、オンラインで平常時と変わらない教育活動を続けることができるように準備をすすめる。</li> <li>・来年度からは高等部でも一人一台端末を整備する予定であり、日常的にICTを利用して授業が行えるように準備する。教育効果を高めるためには、どのような形で使うことがよいのかを検討する。</li> </ul> </li> </ul>
	<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①研修機会の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な児童生徒に対応するために、常に新しい知識を身につける必要がある。外部講師などを活用して、研修を進める必要がある。</li> <li>・新規採用教諭や臨時的任用講師が多いので、特別支援教育に関する基本的な知識を身につける研修に取り組む。</li> </ul> </li> <li>②職場環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外労働時間は減少傾向にあるが、さらなる取り組みが必要である。効率的な業務の進め方などの情報を共有したり、職員アンケートの結果などを元にして、職場環境の見直しを進める。</li> </ul> </li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<p>&lt;学習指導の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、「個別の教育支援計画」等を策定する。</li> <li>・児童生徒の自主的な活動を促進することにより、日々の生活を豊かに生きる力を育てる。</li> </ul> <p>&lt;キャリア教育の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する。</li> <li>・小学部、中学部及び高等部の特性を生かし、学部間の連携を深め、一貫性のある教育を進める。</li> </ul> <p>&lt;安全で安心な学び場づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや暴力のない学校づくりに取り組む。</li> <li>・防災教育、防災対策の推進に努める。</li> </ul>
<p>学校運営等</p>	<p>&lt;保護者・地域住民等との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校や福祉関係施設、行政機関等との連携を強める。</li> <li>・地域における特別支援教育を推進するために、特別支援学校のセンター的機能による支援の充実に取り組む。</li> </ul> <p>&lt;資質向上の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識の習得に努める。</li> <li>・新しい時代の教育に対応できるよう研鑽と修養に積極的に取り組む。</li> </ul> <p>&lt;働きやすい職場環境づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務分担等の見直しを図り、総勤務時間の縮減に取り組む。</li> </ul>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果
<p>学習指導の充実</p>	<p>&lt;小学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人ひとりの成長に合わせたきめ細やかな授業を行う。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画（日常生活の指導）の目標達成率を学部全体で80%以上とし、一人ひとりのニーズに合った授業となっているかを振り返る。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;中学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善を図り、生徒の学びをより深める。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部内で授業研究を実施し、1人1回提案授業を行う。</li> <li>・提案授業者は、一定期間内に他学部の授業見学を最低1回行い、自身の研鑽の機会とする。</li> <li>・提案授業後に事後研究会の場を設け、目標や課題設定、生徒への支援等が生徒の学びにつながっているかを振り返る。また、事後研究会で話し合った内容を、毎回全学部で周知する。</li> <li>・授業研究について、毎回全学部で告知して参観を募り、授業に対して多角的な意見を出してもらう機会を設ける。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;高等部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・i p a dの基本的な操作方法を身につけ、各自で操作できるように支援する。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週2回は使用する機会を設定する。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;教務部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的にI C T機器を活用した授業を実施し、新しい学びの創造や実践に取り組む。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・I C T機器を活用した授業を、全体の50%以上とする。</li> <li>・年度末に授業担当より聞き取りを行い、I C T活用率を算出して、校内で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成率は、前期64%であったが、後期86%に上昇した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月で中学部教員全員が提案授業を実施した（計7回）。今年度は参観中に使用するメモ用紙を授業研究の柱の「参観者の視点」とリンクしたものにした。その結果、参観中の視点・事後研の討議の内容を一貫したものにすることができた。学部外の教員が参観した際にも視点が統一できたので、昨年度よりも生徒の学びについて深く振り返ることができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に合わせ、アプリなどを使った学習に取り組んだ。</li> </ul> <p>【作業学習】「かかし」制作にあたり、題材を考えるのに使用した。</p> <p>【音楽】曲を聴いたり、動画を見たり、演奏時のリズムを確認するのに使用した。発表の練習や本番の様子を、本人が確認するのに使用した。</p> <p>【自立活動】「漢字（漢検）」「時計」「お金」等の学習で使用した。ポスター作成に向けた調べ学習等で使用した。</p> <p>【数学】空間図形パズルを解く過程で、3方向から撮影したものを記録し考えさせた。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部生徒が一人一台のタブレット端末を使用できる環境は12月に整備できた。</li> <li>・授業でのI C T機器活用率は、小学部61%、中学部60%、高等部31%、全体で51%であった。</li> </ul>

<研修・人権教育部（人権）>

・小、中学部の居住地校交流、各学部の学校間交流を推進する。

【活動指標】

・各学部、年1回以上の学校間交流を行う。

<保健部（保健指導）>

（1）歯科指導

・個々の児童生徒の障がいの状態や発達の段階の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にする。  
・歯・口の健康づくりの実践を、生活の自立や社会生活への参加に繋げる。

【活動指標】

・各学部、年に1回実施する

（2）感染症予防指導

・障がいの特性に応じた指導の工夫を行い、集団及び個別の指導を行う。  
・自らの判断や意思に基づいて、適切に行動選択し、主体的に健康的な行動を実践できる力をつける。

【活動指標】

・各学部、年に1回実施する

（3）思春期教育

・児童生徒一人ひとりの知的障がいの状態等を踏まえ、発達段階、身体的成熟や心理的発達に合わせて、社会生活への適応を図るための指導を行い、必要に応じて家庭

【小学部】居住地校交流を3校実施した。金山小学校・有馬小学校との学校間交流を実施した。

【中学部】有馬中学校と学校間交流を実施した。

【高等部】8月に紀南高校JRCとの交流学習を実施した。

【小学部】6月に実施

・手作りの歯の模型を準備し、キネティックサンドを本物の歯ブラシを使って落とす作業を行った。どのように磨くと落としやすいか、歯ブラシの向きをかえ磨く様子などが見られた。

【中学部】11月に実施

・感染症のリスクを考え、2グループに分かれて指導を行った。自分の歯を丁寧に磨く指導を行ったことで、給食後の歯磨きの時間も丁寧にやっている様子が見られた。

【高等部】実施せず

【小学部】11月に実施

・紙芝居を用いて手洗いの手順を説明し、手洗いチェッカーを使って洗い残しの確認を行った。紙芝居を見た後、自ら進んで手を洗いに行く児童や、手洗いチェッカーで自分の指の色が変わっていることに気づき、汚れを落とそうとする姿が見られた。

【中学部】6月に実施

・手洗いチェッカーを使用した手洗い指導を行った。手洗いチェッカーを使用することで自分自身の手洗いの癖や、どこに洗い残しがあるか視覚的に伝えることができた。授業後には丁寧に手洗いをする様子が見られた。

【高等部生活コース】4月に実施

・高等部教員による手洗い指導を行った。しまじろうのDVDを使用し手洗いの大切さについて理解し、「あわあわ手洗いの歌」に合わせ正しい手洗いの方法を学んだ。

【中学部】12月に2回実施

・命について、プライベートゾーン・パーソナルスペースについて指導した。個別で質問に来る生徒もいたため、今

	<p>との密接な連携・協力体制をとる。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学部：年に1回実施する</li> <li>・ 高等部：自立支援コースを対象に、年1回外部講師を招き講演会を行う。また、養護教諭による事前指導事後指導を実施する。</li> </ul> <hr/> <p><b>&lt;保健部（学校給食）&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食を生きた教材として活用する。</li> <li>・ 児童生徒と関わりの深い事業所等の食材を積極的に使用し、地域の方に見守られながら成長していることを、給食を通して伝える。</li> <li>・ 様々な献立を給食に取り入れ、児童生徒の「食経験」を増やして、食に対する知的好奇心や興味関心を高める。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒に関わりのある納入業者を新規開拓する。</li> <li>・ 日常の給食時間の児童生徒の変化（食べられるものが増えた・食べるときの姿勢等）</li> </ul>	<p>後の指導方法については、保護者と相談しながら来年度につなげていく。</p> <p><b>【高等部自立コース】</b>11月に4回実施（外部講師1回、養護教諭3回）</p> <p>命について、パーソナルスペース・プライベートゾーン・デートDVなどの内容で外部講師を招いた。その後、養護教諭が補足する授業を行った。授業後、人との距離の取り方に気をつける様子が見られた。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後デイサービスを運営するあそぼらいつ（「あそぼらん」を使用）、卒業生の進路先である南紀さんさんワーク（野菜を使用）などの納入業者を新規開拓した。</li> <li>・ 食べられるものの増加、箸の持ち方や食べるときの姿勢の改善、家庭での食事など児童生徒それぞれのペースで変化が見られた。</li> </ul>
<p>キャリア教育の充実</p>	<p><b>&lt;保健部（食育指導）&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の農畜産物生産者と連携・協力し、出前授業等を通して交流することで児童生徒の地域社会への参画に繋げる。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前授業の事後指導アンケートで、「〇〇さんのおはなしをよく聞くことができた」等で「はい」と答える児童生徒が80%以上</li> </ul> <hr/> <p><b>&lt;支援部（進路支援）&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての生徒の進路保障に取り組み、各学部と連携して進路支援を行う。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般事業所対象の学校見学会を開催し、本校生徒の就労受け入れ実績のない事業所を、5事業所以上招く。</li> <li>・ 本校高等部生徒および中学部生徒を対象に、年1回以上進路学習を行う。</li> <li>・ 中学部保護者を対象に、年1回進路説明会を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月に学校給食精肉を納品する岡田精肉店社長西村氏を招き、みくまの牛について・食事のあいさつの重要性などの講話を行い、その後は西村氏より寄付していただいたみくまの牛を使用したハンバーグを給食で提供した。（感染症対策として各学部1年生対象、高等部のみ前回講話を聞くことができなかった生徒も参加）その後、アンケートでは、「西村さんの話をよく聞くことができた」、「内容を理解した」の項目で「はい」と答えた児童生徒が80%以上であった。</li> </ul> <hr/> <p><b>【1学期】</b>前期現場実習の事前学習1回、3年生向け進路学習1回</p> <p><b>【2学期】</b>後期現場実習1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12月12日に一般事業所対象見学会を開催、11事業所が参加した。</li> <li>・ 12月22日に高等部3年生向けの進路学習を実施した。</li> <li>・ 12月23日に中学部保護者対象の進路説明会を行った。</li> </ul>
<p>安全で安心な学び場づくり</p>	<p><b>&lt;生活指導部&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめのない学校づくりをすすめるために、全校集会の中に、「命の大切さ」「仲間づくり」を意識した活動内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月に前期のいじめ・体罰アンケートを書面で実施した。</li> <li>・ 6月、1月の命を大切にする集会で</li> </ul>

	<p>容を取り入れる。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回、いじめ・体罰アンケートを実施し、いじめや体罰の早期発見早期対応に繋げる。</li> <li>・全校集会では、児童生徒が「命の大切さ」を学ぶことができる教材を必ず使用する。</li> </ul> <hr/> <p><b>&lt;保健部（健康診断）&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断を実施する前に、児童生徒の障がいの状態や発達段階の的確な把握に基づいた事前指導等を行う。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に実施方法についてアンケートを行い、満足度80%以上とする。</li> </ul> <hr/> <p><b>&lt;保健部（避難訓練）&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が災害時に安全に避難できるよう、避難訓練の事前指導・事後指導を行う。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後指導アンケートの「先生の話聞いて行動できたか」「『おはしもち』を守ることができたか」の項目について「はい」と答えた児童生徒が80%以上とする。</li> </ul>	<p>は、「命の大切さ」を考えることができるビデオ教材を使用した。また、学部を越えて「仲間づくり」ができるように縦割り班での活動を行った。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に実施予定</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に地震を想定した避難訓練と初期消火訓練を実施した。高等部の生徒に向けて、北海道胆振東部地震を経験した教員による講話を行った。</li> <li>・1月には火災を想定した避難訓練と起震車体験を実施した。</li> <li>・事後のアンケートでは、「先生の話聞いて行動できたか」「『おはしもち』を守ることができたか」の項目について「はい」と答えた児童生徒が80%以上であった。</li> </ul>
--	---	---

改善課題

**<小学部>** 学習指導要領と指導計画で立てた目標の整合性に課題があった。目標に偏りが無いのか、どの能力を伸ばしているかを照らし合わせながら確認・修正していく必要がある。

**<中学部>** 今年度、提案授業を行う教員は、期間中他学部の授業を見学できるようにしたが、授業や生徒の実態から全員が授業見学に行くことができなかった。授業見学に行く機会の保障について検討していきたい。

**<高等部>** 今年度は1人1台端末導入元年であったため、その機器利用に焦点を当てたが、来年度はパソコンの利用も加味したバランスある取組内容にしていきたい。

**<教務部>** 高等部の授業のICT機器活用率が他学部より低い状況だった。各教室にプロジェクターが整備され、高等部の生徒が一人一台のタブレット端末を使用できる環境が整ったので、教員がツールとしてICT機器を活用する強みを感じ取ることができるように、引き続きGIGAスクールサポーター等と連携して研修を実施する必要がある。

**<研修・人権教育部（人権）>** 交流学习を行うにあたって、子どもの人権を基本にしていくことを、共通認識にしていく必要がある。

**<保健部（保健指導）>** 「全体で行う思春期教育」と「一人ひとりにあった思春期教育」に分けて、継続的に実施していく必要がある。

**<保健部（食育指導）>** 外部講師による食育講話は、児童生徒が食について考える良い機会になっている。今後は、他の生産者も招いて、生産者の思いなどを聞く場を増やしていきたい。

**<保健部（避難訓練）>** 地震をあまり体験していない生徒にとって、起震車体験はとても良い機会となった。今年度は感染症対策の関係で、煙体験ができなかったため、来年度は実施したい。

**<支援部（進路支援）>** 学校見学会に参加していただいた事業所への現場実習・就労受け入れを進めていく必要がある（今回参加した11事業所のうち、受け入れ実績のない事業所は6事業所）。

**<生活指導部>** 「命の大切さ」「仲間づくり」を意識した活動を行う際は、小学部から高等部までが活動しやすいように視覚支援や教材選択を工夫する必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果
<p>保護者・地域住民等との連携</p>	<p><u>&lt;中学部&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習の成果を地域に発信し、地域とのつながりを深めたり、本校の活動の理解を広めたりする。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の学校や保育所に向けて、中学部生徒の出身小学校に向けて、それぞれ1回以上製品を配布する。</li> <li>・昨年以上の数の製品を作成し、文化祭にて保護者・地域の方々に向けて販売する。</li> </ul> <hr/> <p><u>&lt;高等部&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の社会参加を見据えて、学校・家庭・地域が連携し、生徒が校内や地域での行事・交流活動などに積極的に参加できるように支援する。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流を2回以上実施する。</li> <li>・授業での成果物を地域へ3回以上配布する。</li> </ul> <hr/> <p><u>&lt;総務部&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりやホームページなどを通して、保護者や地域に向けて情報を発信し、本校の教育活動の啓発に努める。</li> <li>・保護者や卒業生、地域との連携を強化し、PTA活動の活性化を図る。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月学校だよりの発行・保護者や関係機関への配布及びホームページの更新を行う。</li> <li>・PTA研修会の保護者及び教員の参加率を40%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に金山保育所と金山保育所にリサイクル作業で制作した七夕飾りと、教員向けに油とりパックを届けた。</li> <li>・金山小学校からは作品の交流として、中学部生徒に向けての壁飾りを送っていただいた。</li> <li>・文化祭の販売に向け昨年度の倍近くの数々の作業作品を制作し、完売することができた。</li> <li>・3月に生徒の出身小学校へ作業作品の「脂とりパック」を届ける予定。成長した姿を見せられる機会としたい。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『花育』を通して地域の景観に貢献し、地域の人とふれあう機会にした。</li> <li>・熊野オープンガーデンに参加し、見学場所として花壇を開放した。花の苗(芝桜)や肥料(牛糞)の配布も行なった。</li> <li>・オレンジパークの花壇に、地域の団体に指導を受け花の種(コスモス)をまいた。</li> <li>・地域の農産物販売所の駐車場に花の苗(芝桜)を植え付けた。</li> <li>・作成したコースターを交流で来校した地元高校生へ記念品として配布した。また、地域の小学校や保育所にも配布した。</li> <li>・夏休みの登校日に、地元高校生と、交流学习を行なった。</li> <li>・「青少年赤十字まつり」で共同ブースを開設、ポッチャ紹介等を行なった。</li> <li>・丸山千枚田にて田植えおよび稲刈り体験を実施した。</li> <li>・学校周辺地域から協力が得て、作業学習で取り組むためのアルミ缶回収を実施した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年ぶりに複数の行事を再開し、保護者や卒業生との連携強化や、PTA活動の活性化を図ることができた。</li> <li>・学校だよりは毎月1回(8月を除く)発行した。各家庭への配布のほか、地区掲示板や事業所等に掲示・配布した。学校ホームページは学校だよりの他、行事・授業の様子などを月1回以上更新した。</li> </ul>

	<p>とする。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの閲覧者数を年間7000人以上とする。</li> <li>・PTA研修会の事後アンケートの満足度について、「満足である」「どちらかという満足である」の比率を70%以上とする。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;研修・人権教育部（人権）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の福祉祭りに、全職員が分担して参加する。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊野市、御浜町、紀宝町の福祉祭りに分担して参加する。（年3回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月17日に行ったPTA研修会の参加率は約28%、事後アンケートでは「満足である」「どちらかという満足である」の回答が100%であった。</li> <li>・学校ホームページの閲覧者は、4月から1月末までで累計5795人であった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊野市、御浜町の福祉祭りは、新型コロナウイルス感染症のため、参加しなかった。紀宝町つれもてまつり（2月26日）は参加予定である。</li> </ul>
<p>資質向上 の取組</p>	<p>&lt;教務部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の作成にともない、児童生徒の実態に応じた具体的でわかりやすい目標設定をすることを校内で周知し、PDCAサイクルの実践を促す。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の目標設定と実践、評価についての研修を年1回以上実施する。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;研修・人権教育部（研修）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転入職員対象の研修会を実施する。</li> <li>・教職員による「授業研修」を行い、授業の実践力を高める。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転入職員対象の研修会は、年2回、実施する。</li> <li>・「授業研修」については、報告会を年2回実施する。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;生活指導部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者侵入時対応や児童生徒失踪時対応についての訓練や講話を実施し、緊急時に教職員が迅速な対応を取ることができるように校内体制を整える。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が専門的知識や技能を学ぶために、警察署に訓練や講話の講師を依頼する。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;保健部（研修）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊野消防署の職員を招いて、救命救急法研修を実施する。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員参加率90%以上とする。</li> <li>・食物アレルギー、てんかん発作、嘔吐処理についての校内研修を実施し、児童生徒の緊急時に教職員が迅速な対応をとれるような校内体制をつくる。</li> <li>・避難訓練等を中心とした取組を実施し、災害時や緊急時に適切な対応がとれるような校内体制をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに研修部と連携して、個別の目標設定に関しての研修を行った。作成した目標が、児童生徒の実態に応じた具体的でわかりやすいものになっているか、教員間で意見交換を行った。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転入職員対象の研修会を5月18日、6月8日に実施した。</li> <li>・「授業研修」については、年3回実施した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に警察署に講師を依頼し、不審者侵入時対応講話を実施した。</li> <li>・2月に児童生徒失踪時対応訓練を実施した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月に普通救命講習Ⅰを実施した。体調不良等の理由により、参加率は73%であった。</li> <li>・4月に外部講師を招いて、食物アレルギー・てんかんの校内研修を実施した。中学部は、生徒に実態に応じた緊急時対応訓練を実施した。</li> <li>・嘔吐処理研修は6月と11月に2回実施した。</li> </ul>



	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員参加率90%以上とする。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートで満足度80%以上とする。</li> </ul> <hr/> <p>&lt;支援部（地域支援）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に係る教職員の支援力向上に努める。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中に特別支援教育に関する公開講座を開催する。 (外部参加者の出席30名以上)</li> <li>・本校新規採用教諭や臨時的任用講師を対象とした特別支援教育に関する校内研修会を開催する（年2回以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に地震を想定した避難訓練と初期消火訓練を実施した。高等部の生徒に向けて、北海道胆振東部地震を経験した教員による講話を行った。</li> <li>・1月には火災を想定した避難訓練と起震車体験を実施した。</li> <li>・事後のアンケートでは、「先生の話聞いて行動できたか」「『おはしもち』を守ることができたか」の項目について「はい」と答えた児童生徒が80%以上であった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月3日（水）「どうすればいい？現場で起こる行動障害への支援」を開催した。参加は人数48人であった（小31人、中7人、高3人、特支7人）</li> <li>・5月18日（水）6月8日（水）の2回校内研修会を開催した。また、校内において事例検討会や個別の相談支援・情報提供を行い、教職員の支援力向上に努めた。</li> </ul>
<p>働きやすい 職場環境 づくり</p>	<p>&lt;研修・人権教育部（研修）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーハラスメント防止啓発についての研修会を実施する。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回実施する。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が、健康で意欲的に教育活動に取り組むとともに、コンプライアンスを意識して業務を遂行する職場環境を整備する。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校日を月1回設定する。</li> <li>・会議の所要時間45分以内を遵守する。</li> <li>・月45時間を超える時間外労働をなくす。年間の時間外労働時間を360時間以内とする。</li> <li>・年間1人あたりの休暇取得日数を昨年度比0.5日増加させる。</li> <li>・コンプライアンスミーティングを実施する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校できた職員の割合80%以上</li> <li>・時間内の会議の割合80%以上</li> <li>・1人当たりの月平均時間外労働時間25時間以内</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者数0人、年360時間を超える時間外労働者数0人</li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数16日以上</li> <li>・職員アンケートでコンプライアンスを意識した行動ができているという回答90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「パワーハラスメント防止啓発」についての研修会を、7月29日に実施した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の定時退校日に加えて、8月に2日、12月に1日の学校閉校日を設定した。</li> <li>・定時退校できた職員の割合は81%であった。</li> <li>・45分以内に終了した会議の割合は66%であった。</li> <li>・1人当たりの月平均時間外労働時間は12.3時間であった。</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者数は0人、年360時間を超える時間外労働者数は1人であった。</li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数は14.5日であった。</li> <li>・職員アンケートでは「コンプライアンスを意識した行動が個人としてできている」の質問に「該当する」「どちらか」というと該当する」と回答した教員が100%であった。</li> </ul>

<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p>・本校の教育活動への理解を深めるために、報道機関への資料提供を行い、情報を積極的に配信する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・年間5回以上の資料提供を行う。</p>	<p>・入学式、熊野オープンガーデン、体育祭、特別支援教育公開講座、文化祭、高等部作業学習、くろしおミュージアム、卒業式の8回資料提供を行い、地元紙に掲載された。</p>
---------------------	---	---

### 改善課題

<中学部> 出身小学校への作業作品の配布について、来年度は増やしていきたい。

<高等部> 学校所在地である金山地域中心の連携が多くなっている。生徒の居住地を考えると、もう少し広範囲での連携も視野に入れていきたい。

<総務部> 児童生徒も参加できるPTA行事の参加率は上昇している反面、保護者・教職員対象の研修会は参加率が減少しているため、開催時期や内容の見直しを行い、より多くの会員が参加し、進路について知る機会にしていく必要がある。

<教務部> 個別の指導計画で作成した目標や成果について教員間での意見交換を行ったが、他の会議や研修等で時間が設定しにくかった。令和5年度からは教員間の意見交流が十分行えるように、年間行事計画に検討期間を設け、その間会議や研修を可能な限り控えてもらえるように呼びかける。

<研修・人権教育部> 来年度は各市町の福祉祭りに、教職員と児童生徒で参加していきたい。子どもの人権については、夏季休業中などに時間をとって研修を行う必要がある。教職員の同和教育についての研修を実施したい。

<保健部> 救急救命法研修は、73%と低めの参加率となった。感染症の状況のより、夏（8月）から冬（1月）に変更したが、体調不良による欠席が多かった。実施時期については、再度検討する必要がある。産業界から、非常口を使用した避難訓練を実施の方がよいという意見を頂いた。来年度は検討したい。

<支援部（地域支援）> 校内教職員の支援力・資質のよりいっそうの向上とコーディネーターを担える人材の育成に努める必要がある。

<生活指導部> 児童生徒失踪時対応訓練では、教員の対応方法にいくつか課題があった。現在は、2年に1回実施しているが、迅速に対応できるようにするために毎年実施する必要がある。

<働きやすい環境づくり> 45分以内に終了した会議数が80%に届かなかった。1時間以内に終了した数は82.7%となっているので、あと少し会議時間を減らす工夫が必要である。2月から職員会議のペーパーレス化に取り組んでいる。資料を事前に配信することで会議時間の短縮に努めたい。定時退校できた職員の割合は80%を超えているが、年360時間を1人超えてしまった。時間外労働が一部の教員に偏っているため、業務負担の見直しを続けていく必要がある。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p style="text-align: center;">（年度末に記載）</p>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p style="text-align: center;">（年度末に記載）</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p style="text-align: center;">（年度末に記載）</p>